

【あるべき姿】

- ◆ ポストコロナ時代への変化を乗り越え、変化が大きく不確実性の高い社会や人生100年時代を念頭に置いた「知識集約型社会」であるSociety 5.0において活躍する人材は、
 - ① 答のない課題に立ち向かう「探究力」や新しい時代を切り拓く「好奇心」
 - ② 生涯にわたり「学び続ける姿勢」を身につけ、これらを基盤として自己決定力を持っている
- ◆ Society 5.0時代の教育・人材育成システムと社会システムは、内外の急激な変化や異質な存在を積極的に受け入れ、多様な人々を輩出し、その活躍・挑戦を後押しする。教育の受益者は社会全体であり、これを担う教師の社会的な意義・存在の尊さが再認識され、社会全体が支える中で負担の軽減を図り、教師が担うべき本質的な面で存分に能力が発揮できる環境を実現する

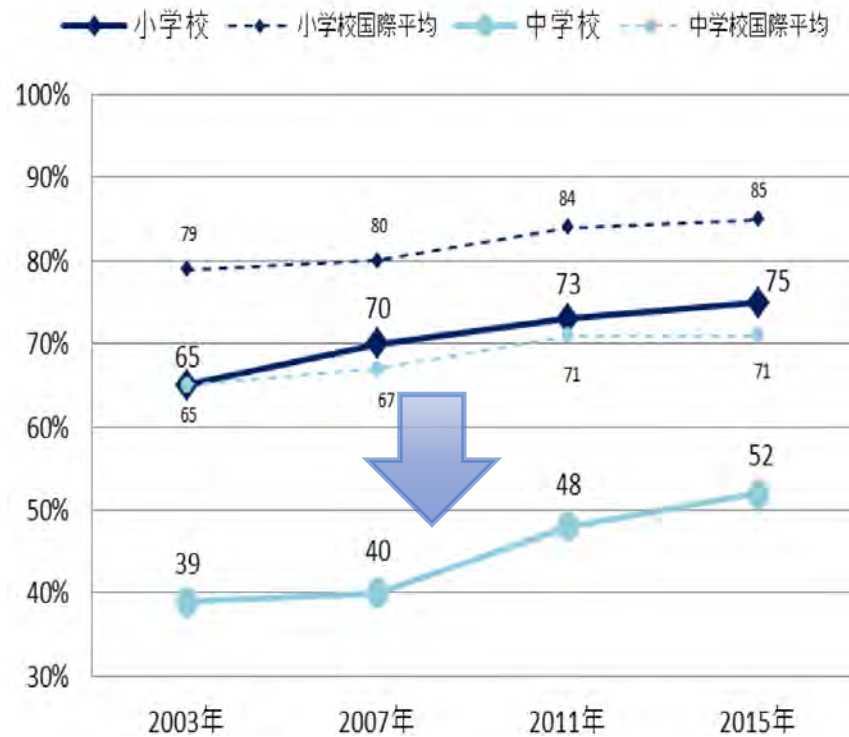
【取組の方向性(案)】

- ① 答のない課題に立ち向かう「探究力」や新しい時代を切り拓く「好奇心」について
 - 学習指導要領の改訂等により「探究力」や「好奇心」の強化が進むところ、社会とテクノロジーが教育現場を支える姿を実現する
 - あわせて、教員の業務負担を軽減し、教育の質の向上に向けた授業準備や教材研究等への時間確保を促進する
- ② 生涯にわたり「学び続ける姿勢」について
 - 雇用環境について、ジョブ型雇用への転換が進む中で「継続的な学びを通じてより良い人生を得る」という意識改革・行動変容を促す

理数好きの児童生徒の割合

「算数・数学」や「理科」について、「楽しい」と思う児童生徒の割合は、**小学校から中学校にかけて大きく低下**

算数・数学は楽しい



理科は楽しい



出典：「国際数学・理科教育動向調査（TIMSS2015）のポイント」（文部科学省）

イノベーションを志向する人材の確保状況

- 現状では、責任ある社会の一員として、夢を持ち、国や社会を変えられると思う人材が育っていない
- また、解決したい社会課題を考え、周囲と積極的に議論する人材も育っていない

日本は、諸外国と比較して以下の各項目がいずれも最低

Q1 あなた自身について、お答えください。（各国n=1000）
（※各設問「はい」回答者割合）

		自分を大人だと思う	自分は責任がある社会の一員だと思う	将来の夢を持っている	自分で国や社会を変えられると思う	自分の国に解決したい社会課題がある	社会課題について、家族や友人など周りの人と積極的に議論している
日本	(n=1000)	29.1%	44.8%	60.1%	18.3%	46.4%	27.2%
インド	(n=1000)	84.1%	92.0%	95.8%	83.4%	89.1%	83.8%
インドネシア	(n=1000)	79.4%	88.0%	97.0%	68.2%	74.6%	79.1%
韓国	(n=1000)	49.1%	74.6%	82.2%	39.6%	71.6%	55.0%
ベトナム	(n=1000)	65.3%	84.8%	92.4%	47.6%	75.5%	75.3%
中国	(n=1000)	89.9%	96.5%	96.0%	65.6%	73.4%	87.7%
イギリス	(n=1000)	82.2%	89.8%	91.1%	50.7%	78.0%	74.5%
アメリカ	(n=1000)	78.1%	88.6%	93.7%	65.7%	79.4%	68.4%
ドイツ	(n=1000)	82.6%	83.4%	92.4%	45.9%	66.2%	73.1%

Society 5.0時代の教育・人材育成のあるべき方向性(イメージ)

多様・流動的・挑戦的な社会システムの構築に向けて、自己決定力を持つ人材の育成に主眼を置き、「探究力」や「好奇心」、「学び続ける姿勢」の強化を図るべく、**教育・人材育成システムのSociety 5.0型への転換**を図る

あるべき姿

Society 5.0型

- 多様・流動的・挑戦的**
- 男女共同参画
 - 文理融合・理数好き
 - 若手活躍
 - シニア活躍
 - 多様な価値軸
 - 自ら選ぶキャリア
 - 地方分散
 - グローバル志向
 - ジョブ型・複線型

自己決定力を持つ人材の育成

① 「探究力」や「好奇心」の強化

② 「学び続ける姿勢」の強化

教育そのものや教師の社会的な意義・存在の尊さの再認識

多様な評価軸

多様な評価軸・キャリアパス

様々な幸せの形の認識

大学で学びたいことを見つけ出す
機会の提供 (STEAM教育等)

社会を理解し学習意欲を高める
機会の提供 (インターンシップ等)

- 知識集約型社会を支える人づくり
- 自律的な学び
- 個々の理解と興味・関心に応じた個別最適な学び

- 強みや個性を活かした多様化
- 多様な価値観がぶつかり合う共創の場

- 複数回にわたる新たな知の取り込み
- 攻めの (自発的な) 学び直し
- 複線的キャリア (転職・副業・兼業)

数理・データサイエンス・AIの素養 + リベラルアーツ

初等中等教育段階

- 高度経済成長を支えた人づくり
- 他律的な教育
- 一律一様の教育

高等教育段階

- 序列による安心感
- サイロ化した現場

社会人段階

- 学校教育期に得た知識の消費
- 守りの (強いられた) 学び直し
- 単線的ルール上での競争

入試の壁：過度な公平性を背景に、単純に数値化された点数での評価

社会の壁：自己啓発に頼った個人任せの学び直し

従前の姿

Society 3.0型

- 男性中心
- 文理の壁・理数嫌い
- 年功序列
- シニアくすぶり
- メンバーシップ型・単線型
- 偏差値・会社序列
- 与えられるキャリア
- 一極集中
- 国内志向

一様・固定的・保守的

參考資料